

安全部会の池上部会長が資料 19-1(安全対策について)を説明した後、短い質疑応答があり、承認された。(「1.安全管理体制、2.安全教育・訓練の実施」において、主語が無いことが安全部会で指摘された。また、最後の方の「図-16 安全に関わる重大な事故発生時の事故対策本部の組織」で、JAXA と MHI の両方から指示が出るようになっていとも指摘された。此の2点だけに手が加えられたようである。)(安全部会で決定されたとおりに、出来る限り詳細に報告する努力をされていたが、認識不十分の点が幾つかあるのに気がついた。飛行管制と飛行安全は全て JAXA が行なうのであるが、MHI に委託するような説明をしていた。

極低温試験を行わないことになったのであるが、リハーサルを行わないと説明していた。「監視カメラは不要との指摘もあったが、MHI が搭載するように出来るとのことで、搭載することになった。」と説明したが、「『搭載カメラの情報は有用であるが搭載しないのか。』との質問(要求では無い)に反応して、搭載を決心した。」が正確な表現である。)

青江:監視カメラの件で、「部会の議論が活きて」と言う表現が、一寸気になる。基本的に、この問題は、安全部会に一切関係の無いことである。「これは此れで良いのですが。」と云うことだと仰った、其れは其の通りです。何も、部会の中において搭載を求めたことは一切無いわけで、¹其のところに

¹ 「部会の成果だと報告するのは心外だ。」と云う意味か、「部会の責任にはしたくない。」と云う意味か、どちらなのか分からない。

一種誤解があるとすれば、それは直しておかなければならないだろう。求めて、それに対応して、三菱重工さんが、ご判断いただいて、其の部分については「搭載しましょう」と云うことになったことは一切無い。ということだろうと思う。

池上:仰るとおりでして、我々は、別に、「載せる。」と云うことを言ったわけでは御座いませんで、いずれにせよ、従来やっていたものをやらなくなるというところについて、今回、新たに、一人称で以って打ち上げの執行を担当する、三菱重工さんがどう考えるかと云うことで、まあ、おやりになると云う話であるということに進んできているということ、別に、部会として「やれ。」と言った様な経緯は全然御座いません。

松尾:ただ、其れについて、トリガーになったことだけは確かだと思えますけど²。こちらが求めたというわけでは、必ずしも無い。それから、「良く考えてください。」と云うことが求めたのかどうか良く分かりません。後、何か御座いますか。

松尾:じゃあ、了承ということでよろしゅう御座いますか。

² 「責任の一端は有る。」と云う意味であろう。少なくとも、松尾委員長の発言は、JAXA や MHI に対して強い影響力を持つことが明らかになったわけで、「不用意な発言は控える。」と、自らを戒める発言であろう。